

平成29年度 水道事業会計決算の概要

資料1

(1) 経営収支(税抜額)

(単位:億円)

項目	区分	平成29年度 決算 (1)	平成28年度 決算 (2)	対前年度決算		主な増減理由
				差引 (3)=(1)-(2)	伸び率(%) (3)/(2)×100	
収 益	給水収益	303.1	300.5	2.6	0.8	
	分担金	4.8	5.5	▲ 0.7	▲ 12.9	
	基金からの繰入金	-	-	-	-	
	受取利息	1.5	1.4	0.1	4.9	
	一般会計繰入金 (阪水分)	0.3	0.4	▲ 0.1	▲ 31.3	
	長期前受金戻入	31.3	31.8	▲ 0.5	▲ 1.6	
	その他収益	18.2	20.7	▲ 2.5	▲ 11.3	緊急時連絡管整備に伴う受託工事収益の減
	特別利益	3.8	9.8	▲ 6.0	▲ 61.1	固定資産売却益の減
	合計(A)	363.0	370.1	▲ 7.1	▲ 1.9	
費 用	人件費	57.6	59.4	▲ 1.8	▲ 3.1	
	受水費	111.0	111.7	▲ 0.7	▲ 0.7	阪神水道企業団からの受水量の減
	物件費	47.2	46.3	0.9	2.0	
	減価償却費等	100.3	98.4	1.9	2.0	更新工事の増
	支払利息	6.2	6.7	▲ 0.5	▲ 7.6	
	繰出金 (阪水分)	0.3	0.4	▲ 0.1	▲ 31.3	
	その他費用	1.7	3.4	▲ 1.7	▲ 48.4	受託工事費の減
	合計(B)	324.3	326.3	▲ 2.0	▲ 0.6	
	当年度損益 (C)=(A)-(B)	38.7	43.8	▲ 5.1	-	
	前年度繰越利益剰余金 (D)	42.4	42.4	-	-	
	利益処分(自己資本金組 入、建設改良積立金) (E)	▲ 38.7	▲ 43.8	-	-	
	翌年度繰越利益剰余金 (F)=(C)+(D)+(E)	42.4	42.4	-	-	

※伸び率は千円単位で計算

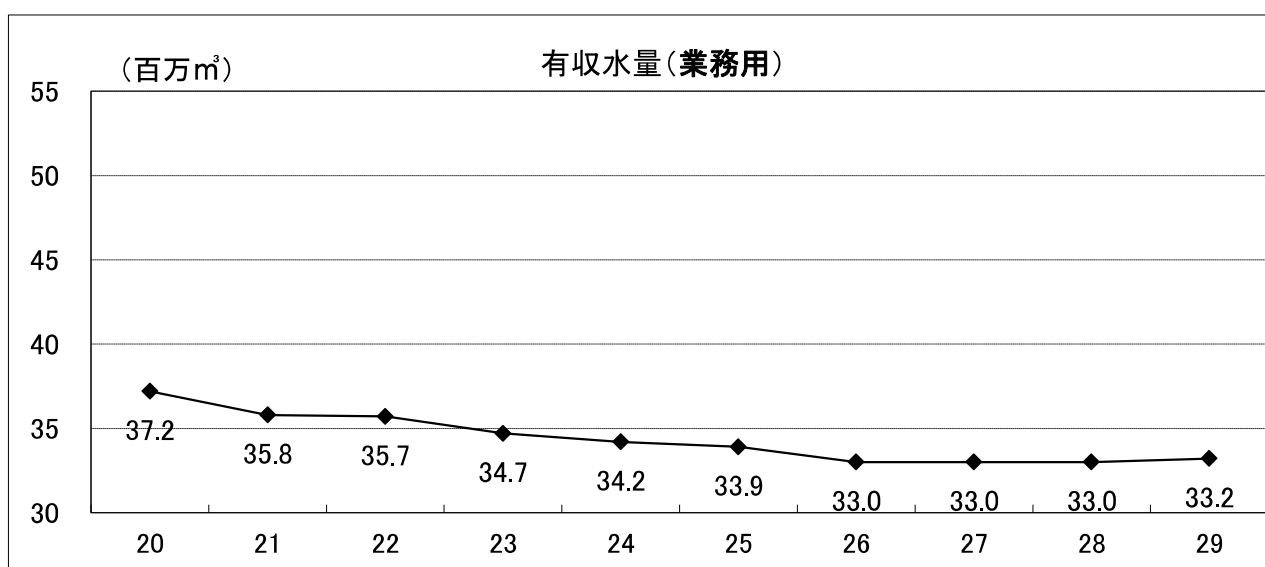
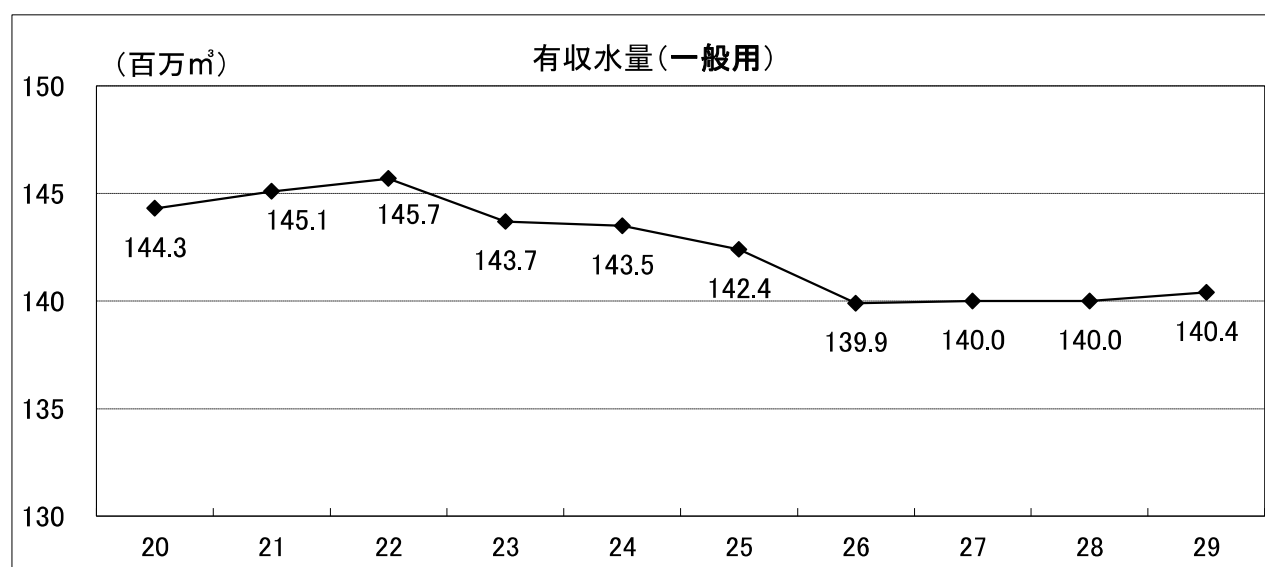
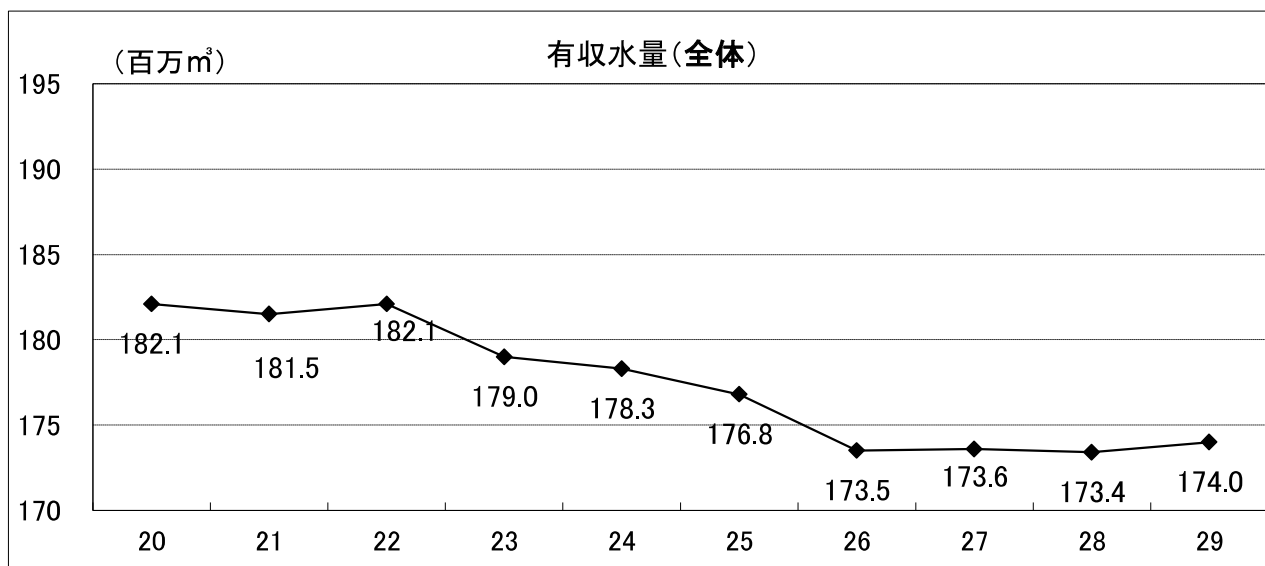
[参考 1]

経営収支（税抜額）〔平成29年度予算・決算比較〕

（単位：億円）

項目	区分	平成29年度 決算 (1)	平成29年度 当初予算 (2)	予算決算対比	主な増減理由
				差引 (3)=(1)-(2)	
収 益	給水収益	303.1	297.3	5.8	
	分担金	4.8	5.2	▲ 0.4	
	基金からの繰入金	-	-	-	
	受取利息	1.5	1.4	0.1	
	一般会計繰入金 （阪水分）	0.3	0.3	0.0	
	長期前受金戻入	31.3	32.0	▲ 0.7	
	その他収益	18.2	18.5	▲ 0.3	
	特別利益	3.8	4.4	▲ 0.6	
	合計(A)	363.0	359.1	3.9	
費 用	人件費	57.6	60.8	▲ 3.2	
	受水費	111.0	111.0	0.0	
	物件費	47.2	47.8	▲ 0.6	
	減価償却費等	100.3	99.8	0.5	
	支払利息	6.2	6.2	0.0	
	繰出金 （阪水分）	0.3	0.3	0.0	
	その他費用	1.7	1.1	0.6	
	合計(B)	324.3	327.0	▲ 2.7	
当年度損益 (C)=(A)-(B)		38.7	32.1	6.6	

(2) 業務量の推移



※ 有収水量(全体)には、一般用、業務用のほかに、公衆浴場用等を含んでいる。  
26年度、27年度、29年度については工業用水道への分水を除いている。

## (3) 資本的収支 (税込額)

(単位：億円)

項目	区分	平成29年度 決算 (1)	平成28年度 決算 (2)	対前年度決算	
				差引 (3)=(1)-(2)	伸び率(%) (3)/(2)×100
収 入	企業債	-	-	-	-
	工事負担金	3.6	3.5	0.1	2.2
	国庫補助金	1.1	0.8	0.3	46.1
	施設増強負担金	0.3	1.4	▲ 1.1	▲ 81.1
	基金収入 (基金の運用益)	2.0	2.0	0.0	1.5
	基金からの繰入金	11.9	2.6	9.3	362.1
	一般会計繰入金 (阪水分)	2.2	2.7	▲ 0.5	▲ 20.4
	その他(*1)	4.9	7.0	▲ 2.1	▲ 28.7
	合計(A)	26.0	20.0	6.0	30.0
支 出	建設改良費	100.0	82.0	18.0	21.9
	基幹施設整備工事費	33.3	12.2	21.1	173.3
	配水管整備増強工事費	46.2	47.0	▲ 0.8	▲ 1.6
	開発団地等施設等 工事費	20.5	22.8	▲ 2.3	▲ 10.7
	企業債償還金	19.4	20.6	▲ 1.2	▲ 5.9
	基金への積立	2.3	3.4	▲ 1.1	▲ 31.6
	繰出金(*2) (阪水分)	5.9	9.2	▲ 3.3	▲ 35.6
	その他	8.2	0.0	8.2	皆増
	合計(B)	135.8	115.2	20.6	17.9
収支差引(A)-(B)	▲ 109.8	▲ 95.2	▲ 14.6	-	

※伸び率は千円単位で計算

\*1 固定資産売却代金1.0億+宝塚市の阪水加入による出資金の返還3.8億 等

\*2 一般会計からの繰入金(元金部分)2.1億

+宝塚市の阪水加入による返還金(出資金相当)の一般会計への繰出し3.8億

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額109.8億円は、損益勘定留保資金(当年度の減価償却費など、再投資のために計上している資金)等で補てんした。

[参 考 2]

平成29年度末 神戸市水道事業会計貸借対照表

(単位：百万円)

借 方		貸 方	
<b>資 産 の 部</b>		<b>負 債 の 部</b>	
<b>固 定 資 産 306,549</b>		<b>固 定 負 債 37,617</b>	
有形固定資産 266,618		企 業 債 27,444	
土 地 25,501		引 当 金 7,695	
建 物 21,820		受水費高騰対策勘定 2,478	
構 築 物 405,578		<b>流 動 負 債 12,126</b>	
機 械 及 び 装 置 57,305		企 業 債 1,803	
車 両 運 搬 具 407		未 払 金 5,876	
船 舶 16		前 受 金 1,259	
工 具 器 具 及 び 備 品 2,790		引 当 金 474	
建 設 仮 勘 定 2,742		その他流動負債等 2,714	
減価償却累計額 ▲ 249,541		<b>繰 延 収 益 93,234</b>	
無形固定資産 69		長 期 前 受 金 159,018	
地 上 権 5		長期前受金収益化累計額 ▲ 78,312	
施 設 利 用 権 15		建設仮勘定長期前受金 12,528	
ソ フ ト ウ ェ ア 49		<b>資 本 の 部</b>	
投 資 39,862		<b>資 本 金 144,957</b>	
投 資 有 価 証 券 15,788		自 己 資 本 金 144,957	
出 資 金 1,009		<b>剰 余 金 43,352</b>	
基 金 20,816		資 本 剰 余 金 28,872	
破 産 更 生 債 権 等 72		受 贈 財 産 評 価 額 9,224	
貸 倒 引 当 金 ▲ 72		国 庫 補 助 金 615	
そ の 他 投 資 等 2,249		一 般 会 計 補 助 金 209	
<b>流 動 資 産 24,737</b>		工 事 負 担 金 17,990	
現 金 預 金 19,458		施 設 増 強 負 担 金 等 834	
未 収 金 3,055		利 益 剰 余 金 14,480	
貸 倒 引 当 金 ▲ 1			
有 価 証 券 99		建 設 改 良 積 立 金 6,366	
貯 蔵 品 239		未 処 分 利 益 剰 余 金 8,114	
前 払 金 744			
その他流動資産等 1,143			
<b>繰 延 勘 定 -</b>			
開 発 費 -			
<b>合 計 331,286</b>		<b>合 計 331,286</b>	

## 「中期経営計画2019」の進捗状況について

### ●主な「施策内容」及び「年次計画」の進捗状況（平成29年度）

施策内容	年次計画	実績
<b>第1章 水道システムの最適化</b> ～次世代に、蛇口からいつでも水が飲める水道システムを継承します～		
上ヶ原浄水場の再整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設規模等の検討（28・29年度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易な検討として導入可能性調査（先行事例調査、民間事業者ヒアリング等）を実施し、総合的に評価した結果、公民連携による整備手法に一定の効果があることを確認。</li> </ul>
布引の水のPR・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボトルドウォーター「布引溪流」によるPR</li> <li>布引の水を活用した水道水の有効活用の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水の科学博物館建築100周年記念ラベルや他局とのタイアップボトルの製造。</li> <li>布引溪流の水の事業者向け販売を年4回実施するとともに、企業向けにヒアリング調査を実施。</li> </ul>
千苧貯水池流域の水源涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>千苧貯水池「森と水の守り人養成講座2017」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千苧貯水池「森と水の守り人養成講座2017」（全10回）の実施。（市民ボランティア17名が修了）</li> <li>地元企業と「千苧貯水池の水源涵養に関する協定書」を締結するとともに、協働で水源林保全活動の実施。</li> </ul>
ポンプ設備のダウンサイジング実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>更新にあわせた適正容量化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9機更新（計444kW減）</li> </ul>
マイクロ水力発電の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>送水系統への導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤原配水地にて水力発電を開始。</li> </ul>
配水管の更新ペースアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間30km更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間26.3km更新（30年度への繰越分11.6kmを含めると37.9km）</li> </ul>
貯水槽水道の適正管理の確認強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模受水槽を対象に個別訪問の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年前倒して小規模受水槽水道の設置者、約4,600件に対し訪問調査を実施。（H28・29合計：約7,900件）</li> </ul>
<b>第2章 災害への備え</b> ～大震災の記憶をつなぎ、あらゆる危機に強い水道をともに築きます～		
配水池の耐震化	<ul style="list-style-type: none"> <li>配水池の耐震化率 79.8%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>83.3%</li> </ul>
緊急時連絡管の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋市、稲美町、明石市との緊急時連絡管の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋市、稲美町、明石市を含む5市1町12箇所において整備済。</li> </ul>

貯水機能のある災害時給水拠点の再整備	・2か所	・2か所 (西鈴蘭台配水地、下谷上高区配水池)
--------------------	------	----------------------------

**第3章 経営の持続** ～公公・公民連携等を進め、高品質で信頼できる経営を維持します～

公民連携のさらなる推進	・業務の集約化や組織再編による事業運営の効率化・最適化	・東部・中部センターの一部業務について包括委託を実施。(H29.12～) ・宅内(メーターまで)の給水管漏水調査・修繕業務を民間委託。
海外と人的ネットワークの構築・企業とのマッチング	・JICA等を通じた研修員の受入・地元企業とのマッチングの実施	・課題別研修を実施(10カ国12名が参加)、地元企業とのマッチングを実施。 ・スリランカで2案件が進行中。 ①技術協力プロジェクト ②地元企業のスリランカ進出に向けた案件形成への支援

**第4章 広報とコミュニケーションの充実・強化**

～市民の財産である神戸の水道について語り合い、水道の未来を共創します～

こうべアクアサポーター制度の推進	・下水道事業と連携し、こうべアクアサポーター事業の実施	・第1期アクアサポーターによる水道週間や震災イベントの運営等への参画。 ・第1期任期満了後、アクアパートナーとして登録。(43名、任期なし) ・第2期アクアサポーター事業を開始。(72名に委嘱)
多様な広報	・新たな広報媒体の展開と多様な機会での情報発信	・「神戸水道の歴史」をテーマにした絵本リーフレット「あたりまえの水道」を作製し、イベントや水の科学博物館等で約3,000部を配布。 ・キッズページ(子ども向けホームページ)をリニューアル。
財政状況や経営情報の発信	・神戸水みらいミーティングの開催	・親子61名を対象に、ワークショップや体験型実験等を実施。
水の科学博物館の活用	・広報活動の拠点として活用	・小学校の施設見学会の受け入れや水の科学博物館100周年記念イベントなど、多種多様なイベントの開催。 ・神戸水道の創設期を紹介する歴史パネルを新たに設置。

## 【参考】財政の状況(平成28年度～平成31年度)

(単位：億円)

区分 \ 年度	28年度決算	29年度決算	30年度予算	31年度
収益的収入	370	363	365	345
うち給水収益	301	303	297	289
うち長期前受金戻入	32	31	32	31
収益的支出	326	324	333	314
うち維持管理費	106	107	114	99
うち受水費	112	111	109	109
うち減価償却費	96	96	100	99
当年度損益	44	39	32	31
当年度損益 (長期前受金戻入を除く)	12	7	0	0

31年度は中期財政計画の値